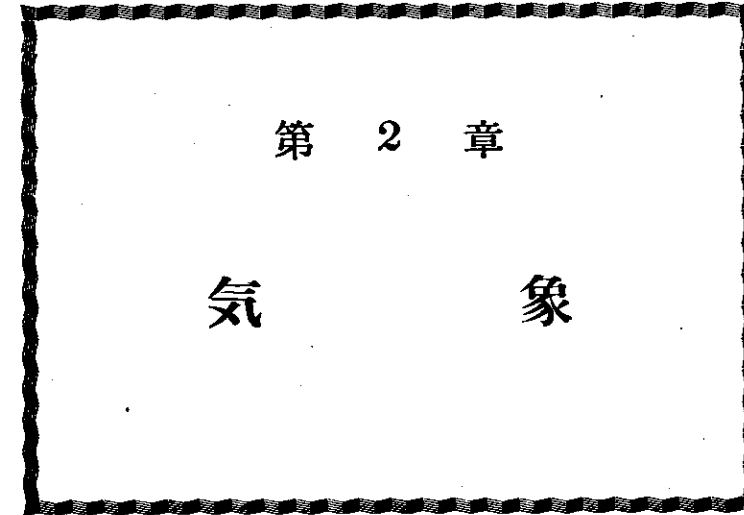


第 11 表 府 県 別 民 有 地

本表は全国の各市町村（東京都では区）が保管している土地台帳または土地補充課税台帳に登録された土地のうち、地方税法第 5 条、第 343 条及び第 344 条の規定により課税の対象となる土地にかんする各年 1 月 1 日現在の数字である。

府 県	総 数	田	畑	宅 地	山 林	牧 場	原 野	塩 田
昭 和 27 年	14 768 335	3 012 732	2 657 376	513 783	7 135 128	...	1 445 097	4 219
28	14 874 955	3 011 461	2 659 401	515 016	7 070 596	162 731	1 451 672	4 079
29	14 895 046	3 014 164	2 674 652	521 830	7 042 144	168 960	1 469 593	3 705
30	14 999 549	3 022 177	2 702 369	529 310	7 084 123	168 651	1 488 840	4 079
北 海 道	2 514 948	159 002	651 733	24 778	880 475	151 891	647 069	-
青 森 県	314 573	69 576	69 952	9 027	94 327	3 097	68 594	-
岩 手 県	662 937	64 227	79 616	11 051	383 925	5 539	118 577	-
宮 城 県	275 063	97 801	42 575	11 242	112 621	-	10 772	53
秋 田 県	270 292	108 678	28 322	9 769	75 271	32	48 221	-
山 形 県	316 330	93 829	41 103	9 863	139 900	-	31 635	-
福 島 県	503 277	104 918	91 103	13 277	260 688	26	33 266	-
茨 城 県	400 206	94 224	129 292	20 665	140 458	209	15 359	-
栃 木 県	336 795	76 524	72 069	13 975	157 854	1 507	14 866	-
群 馬 県	264 470	35 282	86 616	12 265	106 766	1 447	22 094	-
埼 玉 県	245 936	67 199	93 763	19 454	60 850	-	4 671	-
千 葉 県	347 187	103 182	86 895	19 275	118 733	1 609	17 493	-
東 京 都	110 853	8 640	33 531	30 648	35 459	19	2 556	-
神 奈 川 県	138 061	19 232	44 904	16 657	50 215	436	6 617	-
新 潟 県	476 913	177 523	58 818	17 617	206 362	-	16 593	-
富 山 県	144 992	77 242	11 759	7 118	46 061	-	2 812	-
石 川 県	159 635	53 422	16 906	6 055	79 582	-	3 676	25
福 山 県	173 474	47 180	9 915	5 170	108 470	67	2 673	-
山 梨 県	123 489	18 940	33 110	4 872	54 010	-	12 557	-
長 野 県	422 747	76 999	96 113	14 225	142 162	1 668	91 580	-
岐 阜 県	477 234	64 946	35 666	9 750	356 860	5	10 007	-
静 岡 県	420 368	58 404	70 895	15 380	250 221	-	25 468	-
愛 知 県	266 281	91 015	57 672	23 822	90 415	-	3 332	26
三 重 県	284 431	70 058	29 791	9 414	171 280	-	3 889	-
滋 賀 県	162 411	58 973	8 275	6 376	85 776	-	3 011	-
京 都 府	165 457	40 418	15 662	8 718	98 312	-	2 347	-
大 阪 府	87 945	41 086	9 230	17 206	19 618	-	806	-
兵 庫 県	424 930	101 757	20 106	18 006	277 155	6	7 156	744
和 歌 山 県	147 194	30 021	9 425	3 850	99 809	-	4 090	-
鳥 取 県	263 479	26 833	15 689	4 465	215 289	-	1 203	-
島 根 県	143 763	33 216	15 549	3 888	60 985	160	29 965	-
岡 山 県	404 243	53 157	26 534	5 531	315 266	37	3 718	-
広 島 県	319 938	85 448	32 755	10 532	186 696	-	4 115	394
山 口 県	446 203	72 478	31 782	10 889	327 750	1	2 886	418
徳 島 県	282 414	70 137	21 648	10 065	174 575	-	5 496	493
香 川 県	204 953	27 367	23 392	4 751	148 417	-	685	360
愛 媛 県	106 566	37 698	12 535	5 564	49 442	-	205	1 122
高 松 県	282 570	43 670	45 794	7 441	183 852	0	1 531	281
徳 島 県	331 713	34 137	48 800	3 686	242 346	-	2 745	-
福 岡 県	256 331	105 489	32 126	19 912	73 382	2	25 398	23
佐 賀 県	135 162	53 364	17 409	5 042	39 185	-	20 161	-
長 門 県	167 939	31 927	53 154	7 263	60 451	-	15 144	-
熊 野 県	266 216	76 999	80 694	11 552	73 312	688	23 970	1
大 分 県	199 463	55 036	34 516	7 561	62 484	-	39 731	136
宮 崎 県	209 899	46 014	48 008	7 814	77 851	24	30 187	-
鹿 児 島 県	340 270	59 912	27 188	13 832	89 238	180	49 917	2

(注) 単位：町。資料 自治庁 税務部 市町村 税課「土地平均価額、総地積、総価額等一覧」。



第 2 章 気 象

昭和32年の気象概況

昭和32年は異常な気象経過を見せ、気候異変の多い近年ではあるが、特に今年のそれは特筆すべきものであった。

まづ昭和32年は平年より数度も暖い年頭に明け、その後も2月上旬まで大陸高気圧はあまりに発達しなかつたので、平年より1~2°C高温の暖冬となった。ところが2月中旬に入ると、大陸高気圧が発達し、西高東低の冬型気圧配置が持続することが多く、暖冬が解消して平年より気温は低下した。この傾向は3月中旬から4月4日ごろにかけて更に顕著となったので、春さきは顕著な異常低温を示すに至った。すなはち、上旬はほぼ三寒四温の天気変化を示し、気温は平年よりやや低目、降水量は平年並に近かった。3日から5日にかけて気圧の谷が本邦を通過し低気圧が日本海北部と四国南方を通過したので全般にかなりの雨をもたらした。南の暖気が流入したので気温は上昇した。8日にも華中から低気圧が太平洋岸を東進したので相当量の雨が降った。中旬は10日から15日ごろまで北海道東方洋上で低気圧が猛烈に発達し、本邦は西高東低の冬型気圧が続いたので全般に強い季節風と、顕著な低温が持続し、裏日本では雪しぐれの悪天候が続いた。16日からは高気圧は移動性となり気圧の谷も通過したもので、寒気はやわらいた。然し表日本にはほとんど雨をもたらさなかつた。従って、中旬全般に表日本では雨がほとんどなく、連日好天が持続して乾燥状態が続いた。下旬は23日から25日にかけて気圧の谷が通過したので、僅かながら雨が降ったが、その他は28日ごろまで一般に大陸高気圧の圏内にあったので、著しい低温を示した。29日には大陸高気圧は移動性となって西日本付近を東進、31日には気圧の谷が通過したので、気温はようやく平年並となった。従って下旬は全般に気温は平年よりかなりの低温となり、雨も表日本ではほとんどなかつた。月全般にみると気温は近畿地方全般に平年より1~2°C低く、降水量は表日本では平年の30~50%で記録的な寡雨であった。そのため電力事情は近年まれなピンチにおちいり、火災が頻発し、農作物も悪影響を受けた。

春先の低温は、4月6日ごろ解消して急に暖かくなり、4月10日前後は平年より5°C内外も気温の高い日が続いたので遅れていた平地の桜はいっせいにこのころ満開となった。上旬は3日まではシベリヤ高気圧の圏内にあり、4日以後は7日に弱い気圧の谷が近畿地方を東進したほかは移動性高気圧に支配されていたためほとんど雨がなかつた。中旬は移動性高気圧と気圧の谷がほぼ3日位の短週期で西日本を東進し、気温は1~2°C程度平年より高かった。18日~25日ごろにかけては、前線が本土の南側に停滞して長雨となった。伊半島等では連日大雨となり水害が発生した所もあり、全般にこの長雨は農作物に悪影響を及ぼした。その後26日から月末にかけて一時天気は回復していたが、このころはいわゆる「春の雨季」に相当する時期で5月に入ると再び天候は悪化し、12日ごろまでは気圧配置は梅雨型を示すことが多く、ぐずついた天候が続いた。

5月13日ごろからは天気はようやく順調に進み、天気図では6月15日ごろ平年並に西日本は梅雨に入った。しかし梅雨の初期にあたる6月25日ごろまでは梅雨前線が発達せず、各地共ほとんど雨がなく、空梅雨の様相を呈したが、6月26日台風等570号が台湾付近から九州南西方に接近し、これに刺戟されて梅雨前線が本土に北上活動して一挙に西日本に大雨を降らせ（特に大阪市では創立以来の集中豪雨となりジェーン台風以来の大水害となる）てからは、梅

雨現象はその後7月上旬にかけて最盛期となった。7月下旬にかけて梅雨末期の状態が続き各地で強い雷雨が度々発生して水害を引き起こした。（付記一7月25日~26日長崎県早方面では700ミリ以上といった平年帯雨量としては観測史上未曾有の集中豪雨があり、大水害が発生）かくして今年の梅雨は7月29日ごろ明けたが、平年に比べて約半月ほど長びき、7月は記録的な多雨、寡照の月となった。

7月は平年に比べて小笠原高気圧の勢力の強まりが弱く、北方の寒気の勢力が根強く本邦に作用したため梅雨が長びいたのであるが、この傾向は8月に入っても現われ、8月前半は雲が多くにわか雨の多い天候となった。（付記一8月4日から8日ごろにかけて中部地方以東の各地で豪雨多発）8月後半になって、ようやく小笠原高気圧の勢力が強まり、西日本がこの高気圧の圏内に引き続いておわれたので連日晴天となり、真夏がおくれればせにやって来た感じとなった。

しかし9月に入ると、早や小笠原高気圧は衰弱を見せ、大陸の高気圧が合頭して例年より10日以上も早い秋の訪れとなった。上旬初期のころには優勢な大陸高気圧が本邦に張り出し、その後移動性高気圧となって、4日日本海北部を東進したので、例年より10日以上も早く秋型の気圧配置となり涼しくなった。然しこのころ台風第10号が近畿の南方洋上をゆっくり西進しており、この影響も加わって日本海側を除いては雲が多くさわやかな秋晴れの天気にはならなかつた。台風通過後は前線が太平洋岸沿いに停滞して活動したので、9日、10日は日本海側を除いて大雨となり、紀伊半島では10ミリ以上の降雨があった。中旬は移動性高気圧が11日、14~15日、19日~20日と周期的に東進した。然しその経路は北偏して日本海北部を東進することが多く、前線が本土の南に停滞していたので近畿の中部以南では雲が多く、ぐずついた低温の天候が続いた。降雨は11日~12日（前線の活動と低気圧の通過で大雨）と、16日~17日（低気圧の東進による雨）と、20日（前線による雨）であった。下旬は21日~24日はオホーック海方面から優勢な高気圧が日本海から沿海州方面に張り出し、又27日~28日は移動性高気圧が日本海を東進して、いわゆる「北高型の気圧配置」となることが多く、9月は月中本土の南岸付近に前線が停滞して悪天候が持続し、全般的に9月としては、記録的な低温（月平均気温は平年より2°C前後低かった）となり、太平洋側では顕著な多雨、寡照となった。以上のように9月は天候不順のため爽やかな秋晴れの日は1日も見られなかつたのであるが、10月に入ると気象状態は好転して、非常に良い天気が持続した。このため10月は雨が少なく、月雨量を平年に比べて見ても各地共大体平年比が50%以下となり、特にびわ湖畔、奈良盆地、大阪平野方面は平年の20~30%で記録的な寡雨であった。

10月の好天候に引き続いて11月、12月もまづ天気は良好に経過したといえる。平年の状態では11月10日ごろになると大陸高気圧は発達して西高東低の冬型気圧配置が現われ始め寒波の来襲で朝夕の冷え込みは甚だしくなり気温は急速に冬へと下降して行くのであるが、今年は11月末ごろまで移動性高気圧と低気圧が週期的に東進する秋型の気圧配置が続き、寒波の来襲がなかつたので、11月の月平均気温は平年より1~2°C高となった。その後12月に入っても、このような傾向が続き、顕著な寒波の来襲がなかつたので12月も11月に引き続いて1~2°C平年より高温となり、暖冬の気配を示した。なお12月には春先に現われる「春一番」と呼ばれる暖い雨寄りの顕著な突風が、12日夜から13日にかけて本邦付近を吹きまくり全国的にかなりの被害を起したり、また26日にはこれも3月ごろ時々発生する前線が珍らしく12月26日に阪神方面に出現したことも、本年12月の気候異常を物語っているものといえる。

第 1 表 大 阪 管 区 気 象 台

本表は「近畿気象要覧」によるものである。

位 置	経 緯 度		海面上高 メートル	創立年月日 年月日	主 要 機 器 位 置
	東 経 度	北 緯 度			
大阪市生野区勝山通9丁目72	135.32	34.39	6.7	明治15.7.1	水銀気圧計 (海面上) 8.0 温 度 計 (地面上) 1.5 椀形風速計 (地面上) 18.6 自記風圧計 (地面上) 18.8 雨量量計 (地面上) 0.2 自記雨量計 (地面上) 2.7 露場海面上の高さ 6.7

(注) 資料 大阪管区気象台。

第 3 章

人 口

第 2 表 大 阪 の 気 象 概 況

本表は「近畿気象要覧」によるものである。気圧はmbであらわしmmに換算するには3/4をかける。(例)1000mb=750mm、気温は°Cであらわし日平均値は(3、6、9、12、15、18、21、24時の8回。最高は0~24時、最低は前日9~当日9時の日界である。湿度は相対湿度と呼び日平均値(3、9、15、21時)の4回最小の自記紙より記入する。雲量は0~10の目測により日平均値は(3、9、15、21時)の4回で日平均7.5以上は曇、同2.5未満は快晴日数とする。風速はm/sで0~20時の全行程から日平均値を、最強は10分平均値、風向は16方位、風速0.5以下に巻添とする。降水量は前日9時~当日9時の日界、毎時の表は0~24時の日界、単位は水の溜った深さをmmであらわす。日照時数は其太陽時により、時以下は分数1/10法による。したがって日合計8.4は8時24分の意味である。

年 月	平均気圧 基準面 MB+1000	気 温 (°C)			相 对 湿 度 (%)	平 均 雲 量 (%)	風 速 度			降 水 量		日照時間 総 数 (時)
		平 均 (8回)	最 高	最 低			平均速度 (米/秒)	最強風向	最大 速度	総 量 (ミリ)	最大 時量	
平 年	15.2	15.1	19.1	10.8	74	6.0	2.7	NE	29.8	1332.4	63.8	2188.9
昭 和 32 年	15.4	15.3	19.6	11.3	72	6.2	2.9	NNW	16.8	1885.5	60.0	1973.8
1 月	20.0	5.2	9.7	1.0	72	5.5	2.7	N WSW	10.5	45.0	8.0	131.4
2	20.1	4.5	8.0	1.1	66	6.2	3.6	WSW	12.3	40.7	3.9	135.0
3	17.5	6.1	10.9	2.1	62	6.1	3.5	NNW	16.8	42.7	2.9	189.9
4	17.0	14.7	20.4	9.6	65	2.8	2.8	SWW	9.8	131.7	15.6	202.5
5	13.2	17.4	22.5	13.1	72	6.5	2.8	SW	9.8	112.8	10.1	177.8
6	09.1	21.7	26.2	18.0	73	8.0	3.0	SSW	14.4	541.1	51.7	158.8
7	08.1	25.7	29.4	22.9	83	8.6	2.6	SSW	11.8	414.7	60.0	128.4
8	09.8	27.8	29.6	24.3	75	5.8	3.2	S	10.3	118.6	16.7	226.3
9	12.6	21.4	25.3	18.3	77	7.9	3.2	SSW	12.0	278.4	18.7	116.0
10	16.5	17.4	22.2	13.1	72	5.9	2.5	NE	13.0	31.0	2.9	197.5
11	21.4	13.0	18.4	8.3	70	5.0	2.1	W	12.5	59.2	7.4	172.5
12	19.4	5.1	12.1	4.2	72	5.9	2.9	W	14.9	69.6	11.9	137.7

(注) 資料 大阪管区気象台。